授業科目名	教職入門		
授業担当者名	吉村　匡		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1PED1-01
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	教職の社会的意義を理解し、初等教育に関する現状と課題を把握する。 教員の役割や求められる資質・能力及び職務内容等について、事例をもとに考察することができる。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	教職の社会的意義を理解し、初等教育に関する現状と課題を把握するため、いじめ、不登校、外国にルーツのある子ども、LGBTQ等の現状と対策について考え、保護者対応と関係機関との連携についても協議し考察する。 自らの体験を振り返り、理想の教師像について討議する中で、教員の役割や求められる資質・能力及び職務内容等について考察する。 ユニヴァーサルデザインの授業について基礎的な事項を把握するとともに、学校における危機管理の在り方について具体例をもとに考察する。
学生に対する評価の方法	①各回講義での講義ノート(ミニテストを含む)提出　各5点満点　計75点 ②テスト　25点満点　合計100点
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション、ワークショップ、SWOTによる自己分析、教職入門の位置付け 第02回　SWOTを加味した自己紹介、教員に求められる役割・資質(自分が考える理想の教師像について協議) 第03回　SWOTを加味した自己紹介、教職の意義と教員の職務内容 第04回　SWOTを加味した自己紹介、学校を取り巻く諸課題(いじめ、不登校、外国にルーツのある子、LGBTQ等) 第05回　SWOTを加味した自己紹介、児童生徒の行動上の問題と発達の偏り 第06回　SWOTを加味した自己紹介、ワークショップ(SGE)、学級経営と学校運営 第07回　保護者対応と関係機関との連携 第08回　障害のある幼児児童生徒と関連領域 第09回　教育関係法規、教育課程とカリキュラム・マネジメント(グループワークGW) 第10回　GW発表、授業の構造と学習指導案 第11回　ワークショップ(SGE)、模擬授業 第12回　授業について考える(遠隔オンデマンド方式) 第13回　ICTを活用した教育(実践編・GW) 第14回　GW発表、学び続ける教師(教員の研究と修養) 第15回　講義の振り返りと筆記試験
使用教科書	参考書として薦める書籍 ①「教育力」斎藤孝・岩波新書 ②「教育とは何か」大田堯・岩波新書 ③「教えることと学ぶこと」林竹二他・倫書房
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	①現代的な教育課題について新聞やウェブサイトを参照し、グループ討議やディスカッションに備える(90分目安)。 ②講義内容の定着を確認するためのミニテストへの回答と、講義内容の感想や質問の記入、及びフィードバックコメントに関する更なる検索等の作業（90分目安）。

授業科目名	学校保健実習		
授業担当者名	鈴木　かをる		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1SCH2-02
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	学校保健は、保健管理と保健指導などから構成される。その中でも、児童生徒及び教職員の健康診断は、保健管理の重要な部分にあたる。養護教諭は、児童生徒、教職員の健康を守り、育てていくことを職務としており、この健康診断の実施に至る計画立案、実施していくための知識、理解、技能等について実習を通して習得することをテーマとする。また、健康診断の事前指導、事後措置、記録の管理など総合的な実習をめざす。 教育現場では、様々な価値観やニーズをもった児童生徒や保護者がいることから、プライバシーを守り、健康意識を育む健康診断の実施が望まれる。そこで、法的根拠に基づいた健康診断を行うことができる知識と技能を身につけること、児童生徒及び教員に、事前事後の指導等ができることを目標とする。また、本授業を通して、自分の考える養護教諭観、子ども観、健康観等を培い、目の前の子どもの健康課題の発見と健康支援を図るために、学校や地域の実態に応じた指導にあたることができるようになることを目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」〇、「思考力・判断力・創造力」◎
授業の概要	本授業は、学校保健の管理の部分にあたる児童生徒及び教職員の健康診断の実施について、学校保健安全法並びに学校保健安全法施行規則、その他審議会答申等の法的根拠から学ぶ。実際の各種検査等の目的や方法、事前事後指導を中心に、理論と実習をもって習得する。また、養護教諭として、教職員に、健康診断についての指導及び健康診断の測定結果を保健指導、保健管理に活かす活動ができるようにする。そのため、学校組織の中で、担任や管理職にも根拠をもって話せる力や表現力についても実習する。養護教諭として赴任した時から、確実な計画や測定技術が求められることから、小テストや実技テストを行い、実践力をつける。また、グループ活動を通して、測定練習を行ったり、相互評価を行ったりして学びを深める。
学生に対する評価の方法	実習意欲・態度（10%）、小テスト（３0%）、実技試験（30%）、試験（30%）の総合によって評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション ・授業の進め方・授業参加時の服装・小テスト・レポート・評価・班編成他 ・健康診断の目的及び種類と法的根拠 第02回　定期健康診断の流れと全体計画（役割分担）　保健調査　健康診断実施上の留意点 第03回　児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪身長・体重≫　会場設営① 第04回　小テスト① 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪栄養状態・脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無・四肢の状態≫ 第05回　小テスト② 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪視力・色覚・眼の疾病及び異常の有無≫　会場設営② 第06回　小テスト③ 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪聴力・耳鼻咽喉疾患の有無≫会場設営③　学校医との連携① 第07回　小テスト④ 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪皮膚疾患の有無・結核の有無≫会場の設営④　学校医との連携② 第08回　小テスト⑤ 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪心臓の疾病及び異常の有無・尿検査・腎臓疾患・寄生虫卵検査≫ 第09回　小テスト⑥ 児童生徒健康診断　方法と技術的基準　≪歯及び口腔の疾病及び異常の有無》 健康診断票（歯・口腔）の記入 第10回　実技試験、保護者への文書作成 第11回　健康診断票の記入と管理、電子データの利用と管理　健康診断にかかわる文書作成と手順 第12回　職員健康診断　就学時健康診断　臨時の健康診断　欠席者の扱い 第13回　小テスト⑦ 健康診断の事後措置　健康相談及び保健指導の実際 第14回　試験、特別支援学校の健康診断、不登校、配慮を必要とする児童生徒の健康診断 第15回　学校の健康診断時に注意すべき疾病及び異常　まとめ（質疑）
使用教科書	・「児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂」日本学校保健会 ・学校保健・安全実務研究会 編著「新訂版　学校保健実務必携第5次改訂版」（第一法規）（1年次「学校保健」で使用したものでよい。）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	「児童生徒等の健康診断マニュアル」及び日本学校保健会のホームページ「健康診断」に関する映像資料を見て、予習しておく。また、実習時間中に、確実に測定方法・技術を習得すること。 「学校保健実務必携」（ぎょうせい）（1年次購入済み）を見て、健康診断の法的根拠を復習しておく。

授業科目名	養護概論Ⅰ		
授業担当者名	近森　けいこ		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1SCH1-05
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	養護概論Ⅰは、養護教諭の職務に関する基礎的な事項について理解を深めることをテーマとし、それに基づき自分なりの養護教諭観、求められている養護教諭像について主体的に考える姿勢を身につけることを到達目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎　「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	養護教諭に関する歴史、法律における規定、教育者として求められる資質、職務内容（保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、組織活動）と役割等について、講義及びグループワーク等の演習を交えて学ぶ。
学生に対する評価の方法	① 授業への参画態度（10%） ② 小テスト・レポート（50%） ③ 試験40% 以上から総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス（授業の内容と目的・進め方など説明） ※随時、授業時にワークシートやレポート課題を課し、次回に確認作業を行った後、フィードバックする。 第02回　養護教諭の歴史・養護教諭の配置 第03回　法律における養護教諭に関する規定 第04回　答申と学校保健安全法から見る養護教諭の役割 第05回　教育者として求められる資質能力・養護教諭に求められる力・職業倫理 第06回　【小テスト】・学校教育と学校保健-1（学校教育と学校保健関係法令） 第07回　学校教育と学校保健-2（教育課程と学習指導要領） 第08回　現代的な健康課題と対応-1(アレルギー等の健康問題の推移) 第09回　現代的な健康課題と対応-2(不登校・児童虐待等) 第10回　【小テスト】・養護教諭の職務内容（5領域保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、組織活動） 第11回　保健管理-1（救急処置） 第12回　保健管理-2（健康診断） 第13回　保健管理-3（健康観察） 第14回　試験とまとめ 第15回　試験に対するフィードバック、及び授業で十分説明できなかった事項等に関する解説
使用教科書	教科書：「新養護概説第12版」　編集代表　釆女智津江　少年写真新聞社　、「学習指導要領解説体育・保健体育編」（小・中・高等学校）、「学習指導要領解説特別活動編」（小・中・高等学校）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる内容について予習する。また、授業時に生じた疑問点等についてはそのままにしておかず、積極的に質問するようにする。授業計画は授業の進行状況に応じて前後することがある。

授業科目名	養護概論Ⅱ		
授業担当者名	酒井　多香子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1SCH1-06
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	養護概論Ⅱでは、養護概論Ⅰの継続として、養護教諭の職務に関する基礎的な内容について理解する。職務の理解を通して、養護教諭観、児童生徒観、教師観など、自分なりの教育者としての理念を追求する。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	養護教諭としての職務内容である保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営・保健組織活動、安全管理等について、講義およびグループワークを通して学ぶ。
学生に対する評価の方法	① 授業への参画態度（20%） ② 小テスト・レポート（40%） ③ 試験（40%） 以上から総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス（授業の内容と目的・進め方など説明） 第02回 保健管理1（疾病管理、感染症の予防） 第03回 保健管理2（アレルギー疾患・学校生活管理指導表） 第04回 保健管理3（学校環境衛生） 第05回 【小テスト】保健教育1（教科保健） 第06回 保健教育2（教科保健） 第07回 保健教育3（特別活動等における保健の指導） 第08回 健康相談 第09回 精神保健・子どもの心のケア・学校教育相談 第10回 【小テスト】 保健室経営、保健組織活動 第11回 安全管理と危機管理 第12回 調査・研究・プレゼンテーションの進め方・学校医等の役割と職務内容 第13回 学校保健と関係法令・中央教育審議会答申等の理解 第14回 試験・まとめ 第15回 試験に対するフィードバック、及び授業で十分取り扱いできなかった内容・事項等の解説
使用教科書	「新養護概説第11版」編集代表 采女智津江 少年写真新聞社 「小学校学習指導要領解説　体育編」 「小学校学習指導要領解説　特別活動編」
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	シラバス計画を事前に読んで予習をすること。また、小テスト及びレポート課題に対して積極的に取り組むこと。 児童生徒や学校に関する新聞等の記事を積極的に読むこと。 授業計画は授業の進行状況に応じて前後することがある。

授業科目名	養護活動演習		
授業担当者名	伊藤　琴恵		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-2YOG2-03
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	養護教諭の専門領域である「保健管理」、「保健教育」、「健康相談」、「保健室経営」、「保健組織活動」について、一年次に概論を学ぶ。その学びを基盤に養護教諭の職務と役割の理解を深め、養護活動において実践できる力を培う。具体的には、保健室の経営と運営について理解し実践できることを目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」〇、「思考力・判断力・創造力」◎
授業の概要	養護教諭の実践が日々展開される保健室は、学校の教育活動を進めるためのセンター的な役割があり、保健室経営は学校教育目標を具体的に実現させることを目指して行われる。 保健室経営が円滑に実施できるために保健室経営計画について学び、計画案を作成する。また、保健室経営目標達成のための具体的な方策のひとつである保健だよりを作成する。 作成にあたり「学校・地域の実態や健康課題をどのようにつかむか」について理解し実践できる力をつける。 本演習での学びを３年次の養護実習での実践に活かす。
学生に対する評価の方法	提出物・発表（50%）、授業態度（20%）、レポート（30%）などで総合的に評価を行う。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション　養護教諭の職務と役割、学校保健活動と養護教諭 学校経営案と学校組織、校務分掌、組織の中の養護教諭 第02回　健康実態の把握と課題①　学校保健情報とは　健康実態の把握方法 第03回　健康実態の把握と課題②　現代的健康課題とは 健康課題を解決するための保健管理・保健教育の方法 第04回　保健室の経営と運営①　保健室経営とは、保健室経営の構造と進め方 養護教諭の職務・役割と保健室経営 学校教育目標・学校経営方針等との関連 学校経営案と保健室経営計画 第05回　保健室の経営と運営②　保健室経営計画立案までの流れ（計画・実践・評価） 第06回　保健室の経営と運営③　保健室経営計画の作成（健康課題・重点目標） 第07回　保健室の経営と運営④　保健室経営計画の作成（具体的方策） 第08回　保健室の経営と運営⑤　保健室経営計画の作成（評価） 第09回　保健室の経営と運営⑥　保健室経営計画の発表 第10回　保健室経営目標達成の具体的方策① 保健だより（目的と意義　発行手順　起案書） 第11回　保健室経営目標達成の具体的方策②　保健だよりの作成 第12回　保健室経営目標達成の具体的方策③　保健だよりの作成（グループでの検討） 第13回　保健室経営目標達成の具体的方策④　保健だよりの発表 第14回　保健室経営目標達成の具体的方策⑤　保健だよりの発表 第15回　授業の振り返り、試験
使用教科書	「新訂版　学校保健実務必携　第4次改訂版」 采女智津江（編集）「新養護概説＜第10版＞」（少年写真新聞社）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	一年次に学んだ概論を復習し、授業時に示される次回の授業で扱われる内容について予習する。授業後は、授業時に生じた疑問をそのままにせず、深めたい内容とともに調べ学習をし、整理してノートにまとめる。

授業科目名	健康相談の理論と方法		
授業担当者名	井澤　昌子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1HCO1-01
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	近年、社会環境の急激な変化により、子どもの抱える課題は複雑化・多様化している。子どもをとりまく社会や家庭環境の変化に伴い、生活習慣の乱れ・いじめ・不登校・児童虐待・心身症など、子どもの抱える心身の健康課題は深刻化し、養護教諭の役割はますます重要となってきている。養護教諭が行う健康相談は、子どもの発達段階や心身医学等の基礎理論を理解した上で、職務の特性や保健室の機能を生かして行う必要がある。本講義ではこれまでに学修した法規や基礎理論を健康相談と結びつけて考察し、健康相談を行うために必要な知識・技能を身につけることを目標とする。 具体的な到達目標は以下の3つとする。 １．健康相談に関する法規や基礎理論等を理解する ２．養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談について理解する ３．健康相談に必要な知識・技能を身につける
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	授業の前半は、これまでに学習した子どもの成長発達・心身医学等の基礎理論と健康相談を結びつけて理解を深める。具体的には、関係法規・子どもの心身の発達・心身医学・カウンセリング理論・タッチング理論等を健康相談に生かす方法について考察していく。授業毎に小テストを行い、必要な知識を習得しているか確認しながら進めていく。 授業の後半は、基礎理論を生かした健康相談の基本的な対応について学習する。具体的には、腹痛・頭痛等の訴えで来室した児童生徒への対応から、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談について考察していく。さらに、健康相談における学内外の連携や組織活動についても学びを深める。
学生に対する評価の方法	授業前半で実施する小テスト４回（40%）、学習ノート・課題等の提出物（60%）で総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス（授業の目的・概要等） 第02回　健康相談の法的根拠および関連法規 第03回　養護教諭の職務の特質・保健室の機能を生かした健康相談 第04回　健康相談に生かす諸理論①発達段階別身体の健康問題の特徴と理解 第05回　健康相談に生かす諸理論②発達段階別心の健康問題の特徴と理解 第06回　健康相談に生かす諸理論③心身医学の基礎知識と理解 第07回　健康相談に生かす諸理論④カウンセリングの技法の理解（ペアワーク） 第08回　健康相談に生かす諸理論⑤カウンセリングの技法の実際（ペアワーク） 第09回　健康相談に生かす諸理論⑥初期対応・タッチングの技法の理解（ペアワーク） 第10回　健康相談に生かす諸理論⑥初期対応・タッチングの技法の実際（ペアワーク） 第11回　健康相談の実際①基本的対応（グループワーク） 第12回　健康相談の実際②腹痛・頭痛の対応（グループワーク） 第13回　健康相談の実際③その他の不定愁訴への対応（グループワーク） 第14回　健康相談の進め方と支援体制づくり（外部講師） 第15回　授業の振り返り、まとめ
使用教科書	使用教科書は、授業時に説明します。 参考図書：大谷尚子・鈴木美智子・森田光子編「養護教諭の行う健康相談」（東山書房） 文部科学省「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引」（日本学校保健会） 文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援ー養護教諭の役割を中心としてー」 三木とみ子・徳山美智子編「新訂　養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践」（ぎょうせい）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	授業の前半（第03～06回）は、前回の授業内容に関する小テストを実施するため、各自で復習をしておく（週90分）。 授業の後半（第07～14回）は、テキストや事前に配布された資料等を読み、用語等を調べるなどして予習をしておく（週30分）。 授業内容は、授業内に配布される学習ノートにまとめ、提出する（週60分）。

授業科目名	看護学Ⅰ		
授業担当者名	小栗　直子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-1NUR1-01
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	養護教諭として的確な健康管理の実施をするための基礎的知識および技術について学修する。健康の概念や看護の概念・役割について理解し、児童生徒の心身の健康状態の観察、判断、対応についての理解と実践ができることを目標とする。また、教職員や保護者、医療機関などの地域関係機関との連携の必要性とその方法について理解することを目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	子どもの発育・発達の特徴を学ぶとともに、子どもに多く見られる症状と具体的対応について学修する。また子どもに多い症状・疾患について、グループワークで資料を作成しグループ毎に講義を行う。これは2年次の看護学Ⅱで学習する児童生徒に多い疾患に伴う看護を理解する上での前提となる。さらに、自然災害や人的災害時における被災弱者である子どもとその家族への対応について、養護教諭として必要な内容を学習する。
学生に対する評価の方法	①授業への参加状況（40%） ②授業内容の理解度をチェックする試験（60%） 以上2点から総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス、看護とは、看護の機能と役割 第02回　小児看護とは、子どもの成長・発達と健康課題（乳児期、幼児期） 第03回　子どもの成長・発達と健康課題（学童期、青年期） 第04回　母性看護とは、成人・老年看護とは、精神看護とは、地域看護とは 第05回　子どもの健康状態の把握①（ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント） 第06回　子どもの健康状態の把握②（健康の回復・健康の保持増進とケア） 第07回　子どもに多い症状と対応①（発熱、咳嗽、鼻汁等） 第08回　子どもに多い症状と対応②（腹痛、下痢、嘔吐当） 第09回　子どもに多い症状と対応③（頭痛、けいれん、意識障害等） 第10回　子どもに多い症状と対応④（創傷、打撲、捻挫、骨折等） 第11回　子どもに多い急性・慢性疾患①（感染症、感染予防） 第12回　子どもに多い急性・慢性疾患②（アレルギー疾患） 第13回　子どもに多い急性・慢性疾患③（腎・心疾患、糖尿病） 第14回　医療的ケアが必要な子ども、看護師の倫理綱領 第15回　試験と授業全体の振り返り
使用教科書	藤井寿美子編　「養護教諭のための看護学　四訂版」（大修館出版） 内海裕美監著　「園・学校でみられる子どもの病気百科」（少年写真新聞社）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	既習内容と関連づけて学習し、授業計画に記した次回の授業範囲を予習すること（週60分）。 また、授業の中で紹介する事例や参考書物等を読み、さらに実践的発展的な学習をすること（週60分）。 常に子どもの健康に関する話題やニュースなどに関心を持って学習すること。

授業科目名	看護学Ⅱ		
授業担当者名	小栗　直子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	231-2NUR1-02
備考	子どもケア専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	養護教諭として児童生徒の健康管理を実践できる力を身につけることをテーマとする。 児童生徒の発育発達段階の理解、看護に関する基礎的基本的知識をもとに、養護教諭として健康管理を実践できる力を身に付けることを目標とする。慢性疾患もしくは健康課題をもつ児童生徒の発育発達および学習活動を保障するために、養護教諭が実施する疾病管理を実践できる力を身につけることを目標とする。また、健康管理に必要な保護者および関係職種・関係機関との連携の必要性について理解する。
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」〇
授業の概要	小児慢性疾患や現代的健康課題をもつ子どの教育の現状と教育面の配慮や自己管理支援について学習する。 代表的な慢性疾患および現代的健康課題をとりあげて、それぞれについて、①基本的知識②学校生活上の留意点について学習する。
学生に対する評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%） 小テストおよび事例検討レポート（20%） 最終の試験（60%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス　子どもの慢性疾患 第02回　慢性疾患の子どもの状況と教育の意義 慢性疾患の子どもの学校生活 第03回　慢性疾患の子どもへの自己管理支援 第04回　心臓疾患の子どもの学校生活　腎疾患の子どもの学校生活 第05回　アレルギー疾患のこどもの学校生活 第06回　糖尿病の子どもの学校生活　学校生活管理指導表の活用 第07回　国際生活機能分類（ICF）　小テストとまとめ 第08回　医療的ケアを必要とする子どもの学校生活 第09回　小児がんの子どもの学校生活① 第10回　小児がんの子どもの学校生活②　血液疾患の子どもの学校生活 第11回　膠原病の子どもの学校生活、てんかんの子どもの学校生活 第12回　頭痛に悩む子どもの学校生活　起立性調節障害の子どもの学校生活 第13回　思春期やせ症・パニック障害などがある子どもの学校生活 第14回　家庭環境に課題がある子どもの学校生活 第15回　最終の試験　まとめ
使用教科書	満留昭久編；「学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活」（慶應義塾大学出版会） 内海裕美監著；「園・学校でみられる子どもの病気百科」（少年写真新聞社）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	既習科目と関連づけて学習し、授業計画に記した次回の授業範囲を予習すること（週60分）。 また、授業の中で紹介する事例や参考書物等を読み、さらに実践的発展的な学習をすること（週60分）。 常に子どもの健康に関する話題やニュースなどに関心を持って学習すること。

授業科目名	教職実践演習（養護教諭）		
授業担当者名	伊藤　琴恵、浅田　謙司		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	ナンバリングコード	231-3YOG3-04
備考	養護教諭コース 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	大学で学んだ知識と養護実習等で得られた実践力とのさらなる統合を図り、新たな健康課題解決のために、他の教職員、各関係機関、保護者と連携協働して効果的に解決するための実践的指導力を有する養護教諭としての資質の構築とその確認を行うことを目標とする。 テーマ：①使命感や責任感、教育的愛情の育成 ②社会性や対人関係力の育成 ③表現力・発信力の育成 ④養護教諭としての実践的指導力の育成
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・表現力等」〇、「学びに向かう力・人間性等」◎
授業の概要	教職と養護に関する科目の実践演習を半々に実施する。教職関係の授業を先に行い、養護関係を後に行うグループと、反対に養護関係を先に行い、教職関係を後に行うグループがある。具体的な内容は、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、模擬授業などを盛り込み、更には健康課題や保護者・子どもへの対応など、養護教諭としての使命感・責任感・教育愛、社会性、指導力、専門性などを培う。
学生に対する評価の方法	授業への参加態度（20%）、発表（20%）、レポート等の提出（30%）、模擬授業（30%）等を総合的に判断して評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション（授業の進め方、履修カルテなどの資料整理） ＜以下、教職関係＞ 第02回　履修カルテを省みて（レポート課題） 第03回　レポート発表（発表の仕方・相互評価） 第04回　教育現場における課題1（生徒指導・生活指導、事例検討） 第05回　教育現場における課題2（保健室経営、グループ討議と発表） 第06回　教育現場における課題3（教師・保護者・地域等との人間関係作り、ロールプレイング） 第07回　学校での諸問題と対応（チーム学校・法規・教育の変容、集団討議） 第08回　講義のまとめ ＜以下、養護関係＞ 第09回　現代的健康課題への対応1（いじめ、グループ討議と発表） 第10回　現代的健康課題への対応2（発達障害、事例検討） 第11回　保護者への対応（ロールプレイング） 第12回　現代的健康課題への対応3（アナフィラキシー対応、シミュレーション） 第13回　危機管理と応急処置 第14回　現代的健康課題への対応4（感染症、5分間保健指導） 第15回　まとめ
使用教科書	河田史宝 監修、岩崎保之 大川尚子 塚原加寿子 編著「学校教育の現代的課題と養護教諭」 （大学図書出版）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	次回の授業の課題（ホームワーク）については、幅広い資料分析を行って予習し、自分なりの考えをもって授業に臨むこと。また、レポート等は、読み手に自分の考えがより明確に伝わるような書き方やまとめ方を工夫すること。

授業科目名	教職実践演習（養護教諭）		
授業担当者名	井澤　昌子、西尾　一		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	ナンバリングコード	231-3YOG3-04
備考	養護教諭コース 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	大学で学んだ知識と養護実習等で得られた実践力とのさらなる統合を図り、新たな健康課題解決のために、他の教職員、各関係機関、保護者と連携協働して効果的に解決するための実践的指導力を有する養護教諭としての資質の構築とその確認を行うことを目標とする。 テーマ：①使命感や責任感、教育的愛情の育成 ②社会性や対人関係力の育成 ③表現力・発信力の育成 ④養護教諭としての実践的指導力の育成
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・表現力等」〇、「学びに向かう力・人間性等」◎
授業の概要	教職と養護に関する科目の実践演習を半々に実施する。教職関係の授業を先に行い、養護関係を後に行うグループと、反対に養護関係を先に行い、教職関係を後に行うグループがある。具体的な内容は、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、模擬授業などを盛り込み、更には健康課題や保護者・子どもへの対応など、養護教諭としての使命感・責任感・教育愛、社会性、指導力、専門性などを培う。
学生に対する評価の方法	授業への参加態度（20%）、発表（20%）、レポート等の提出（30%）、模擬授業（30%）等を総合的に判断して評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション（授業の進め方、履修カルテなどの資料整理） ＜以下、教職関係＞ 第02回　履修カルテを省みて（レポート課題） 第03回　レポート発表（発表の仕方・相互評価） 第04回　教育現場における課題1（生徒指導・生活指導、事例検討） 第05回　教育現場における課題2（保健室経営、グループ討議と発表） 第06回　教育現場における課題3（教師・保護者・地域等との人間関係作り、ロールプレイング） 第07回　学校での諸問題と対応（チーム学校・法規・教育の変容、集団討議） 第08回　講義のまとめ ＜以下、養護関係＞ 第09回　現代的健康課題への対応1（いじめ、グループ討議と発表） 第10回　現代的健康課題への対応2（発達障害、事例検討） 第11回　保護者への対応（ロールプレイング） 第12回　現代的健康課題への対応3（アナフィラキシー対応、シミュレーション） 第13回　危機管理と応急処置 第14回　現代的健康課題への対応4（感染症、5分間保健指導） 第15回　まとめ
使用教科書	河田史宝 監修、岩崎保之 大川尚子 塚原加寿子 編著「学校教育の現代的課題と養護教諭」 （大学図書出版）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	次回の授業の課題（ホームワーク）については、幅広い資料分析を行って予習し、自分なりの考えをもって授業に臨むこと。また、レポート等は、読み手に自分の考えがより明確に伝わるような書き方やまとめ方を工夫すること。